

平成 21 年 12 月 15 日
北洋銀行 上海駐在員事務所
吉田信昭

2008 年秋からの上海市の市民生活について

昨年秋からの世界同時不況と言われる中で、私の赴任地である上海市の街の様子はどう変わったのか、皆様にお伝えしたいと思います。

その前に先ず、上海市と私の上海駐在経験について紹介させていただきます。

上海市は北京市と同じく省に属さない直轄市で、住所は中華人民共和国上海市となります。群馬県とほぼ同じ面積に約 1,900 万人（東京都、川崎市、横浜市の合計で約 1,800 万人）が暮らしている大都市です。札幌市の 6 倍の面積の土地に 10 倍の人が住んでいます。中国全土の 0.06% の土地から 4.56% の GDP を産み出しており、経済的にも中国の牽引車の役割を担っています。



中国沿岸部の真ん中で長江の河口部、日本から見ると九州の西方に位置し、日本との距離は福岡まで約 850km、東京約 1,800 km、札幌約 2,200 km※となります。首都北京（約 1,100 km）よりも九州のほうが近く、あらためて隣国であると感じます。新千歳空港から上海浦東空港行きの直行便は、本州を縦断しながら東京、大阪、瀬戸内海、そして九州と各地の上空を通過し、東シナ海に出ると 1 時間程度で上海に到着してしまいます。なお、新千歳空港から上海浦東空港までは水曜、土曜、日曜の週 3 便が就航しています。上海は他に日本の 18 都市と直行便で結ばれています。特に羽田空港からは市街地の虹橋空港へ一日に 4 便が就航しておりとても便利です。日※各距離については大まかな距離です。

私は 2007 年の 10 月に上海に着任し、上海生活も 3 年目になりました。事務所も住まいも日本領事館のある市内西寄りの虹橋地区にあります。上海市の西部は外国企業や外国人向けの居住区が多く、日本人、韓国人、アメリカ人やフランス人やドイツ人が多く生活しています。中国語のほうは 2 年経っても一向に上達していませんが、タクシーや買い物などで不自由を感じることは少なくなりました。

さて、最近の上海の街の様子です。ご存知のように上海市では来年 5 月 1 日より上海万博が 6 ヶ月間にわたり開催されます。北京オリンピックに続いての国家を挙げての大イベントである上海万博は、テーマが「より良い都市、より良い生活」であるように、上海市に多くの進化をもたらしています。

交通インフラ整備は高速道路、空港設備やターミナル、地下鉄、新幹線など大規模なものから一般道路の舗装や街の歩道、道路標識に至るまで、あらゆる所で工事が行われています。そして最近では「見える部分」の整備です。市内を走る高架道路から見えるマンションやビルの外壁の塗り替えはほぼ終わり、遂には無数にあるエアコンの室外機にカバーを付ける徹底振りです。そして民間投資の商業ビルやマンション建

設も続いています。街の景色が猛スピードで変化しています。この変化のスピードは昨年秋以降も変わっていません。



では、万博を別にすればどうなのか。昨年秋から今年の3月頃まで、我々外国人は中国経済を不安視してきました。輸出専門工場の長期間の操業停止、韓国人や欧米人駐在員の目立った減少、広州など華南地区から聞こえてくる中小の加工貿易工場の倒産や廃業の話題、同時不況の荒波が上海市にも襲い掛かると思っていました。

一方、上海市の市民生活ですが2007年来の物価上昇(一時は食品で前年比20%以上)が止まり、所得の上昇も止まりました。消費の状況は発表される数

値では、昨年ほどの伸びが無く日本のマスコミは「中国の消費低迷」と書いています。実感としては新しい商業施設も増え、デパートやスーパーの活況ぶりは変わりません。道路には新車のマイカーが日に日に増加し、初心者ドライバーの運転振りに肝を冷やす毎日です。スポーツカーやSUVなどの高級外車も引き続き増えています。

それでは、心配していた不況の荒波は何処へ行ったのでしょうか。4兆元(55兆円)という巨額の経済刺激策は、新たなインフラ整備や家電や自動車の購買補助などによって国内の需要を喚起しました、大胆な金融緩和によって企業は潤沢な資金を手に入れ、資金繰りでの不安は解消しました。企業業績は貿易関連以外では大きな悪化にならず従業員の雇用も維持されています。そして意外と重要ではと思われたのが、「不況報道」が無く「予防的な買い控えがない」ことです。日本では、テレビで「不況です」と言った瞬間に皆が一斉に「買い控え」を考えます。

というような理由なのではと、今までと変わらない市民生活を見ながら考えてみました。本当に相変わらず上海は活気のある街です。

「今日は何の取引ですか？こちらのほうが早いですよ」と優しく声を掛けてくれるのは、先月まで制服のポケットに手を突っ込んでいた女性銀行員。レジで割り込まれると「あなたが先ですね」と私のほうに手を差し出すコンビニの店員。ビル工事の現場では外に出るダンプカーのタイヤの泥をホースで洗い流しています。どれも着任した2年前には「ありえない」と思っていた光景です。

最も遅れていると言われてきた「サービス」も万博を前に急激に進化を始めたようです。どうやら、この街の進化するスピードは景気の動向とは今のところあまり関係が無いようです。



以上